

2024年3月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 3月えんだより

3月の聖句「主よ、あなたの道をお教えてください。」

詩編 86 編 11 節

いよいよ今年度最後の月、3月を迎えました。私たち日本人には、3月は「旅立ちの月」そして「別れの月」というイメージがあります。3月が「年度末」となったのは明治の中頃で、それまでの「米」現物の納税から米を売って得た「現金」による納税へと変わったことで、会計年度が4月から3月となったことが関係しているようです。それ以来、3月は年度の終わりから次年度の始まりへの変化の月として卒業や就職、進級や転勤、また、引っ越しといった中でこのようなイメージができたようです。こども園でもゆり組のお友だちをそれぞれの小学校へ送り出す「旅立ちの月」、「別れの月」となります。ゆり組の子どもたちは「別れ」より、入学準備をする中で、小学校生活への期待の方が大きいのではないかと思います。保護者の方からは、時々、「もう、あと…」といった別れを惜しむお声を伺うことがあります。残り少ない時間ですが、一日一日を大切に、子どもたち、保護者の方々、保育者にとって心に残る時間を過ごしたいと思えます。

随分以前になりますが、卒園と同時に海外への引っ越しが決まっていた園児が、ある時担任の先生に、「お母さんが外国に行くのが心配と言ってる。」と話していました。そして、「先生、大丈夫かな？ぼくもちょっとしんぱいになってきた。」と本人も心配の声を。その時、担任の先生は、「〇〇くん、心配ないよ、大丈夫。どこに行っても、神様がいつもそばにいてくださるからね。」と伝えました。その言葉を聞いた彼は、お母さんに「お母さん、大丈夫だって。先生が、どこに行っても神様がそばにいるから大丈夫！って言ってた。」と伝えたそうです。

こども園を巣立って、それぞれの小学校で新しい道を進んでいくゆり組の子どもたちは「期待」で胸を大きく膨らませていると思えますが、同時に、新しいお友だちのことや勉強のことなど「不安」や「心配」も少なからずあると思えます。保護者の方々も同様に…。また、ゆり組以外の子どもたちも、グループのお友だちやクラスが変わることで不安や心配があるように思えます。そのような時には「いつも神様がそばにいてくださるから大丈夫！」ということをお忘れずに歩むことができればと思います。そして、ゆり組の子どもたちがクリスマス会で歌った「かみさまからのおくりもの」。優しくする心、正直な心、頑張る心、大切に思う心。この4つがこども園の子どもたちに神様が教えてくださった「神様への道」であるように思えます。

今のこども園の子どもたち、保護者の皆様、先生たちと共に、残りの日々を神様への道であるこの歌を口ずさみつつ過ごせればと思います。そして、それぞれの新しい歩みの中にもつながっていくことを祈りつつ。

3月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	おおきくなった	心はずませて
月の願い	*神様の見守りの中で、おおきくなったことを喜び「あそびたいな」「やってみよう」という気持ちや姿を大切に受け止め、過ごしていきたいと思えます。	*成長の喜びや新しい生活に向けての不安など様々な思いを感じながら、友だちや保育者と一緒に期待をもって過ごしてほしいと思えます。
讃美歌	つくしのように 幼児讃美歌58	